

①

すり傷(擦過傷) 切り傷(切創) 刺し傷(刺傷)

ポイント

- 手当の前に手洗いをしてから、きず口を水で洗い流して消毒する
- 出血部は清潔な指、ガーゼ、タオルなどで圧迫して止血する

- ① 乳幼児は転倒したり、転落したりする時にきずを作りやすいのですが、きずの手当の時に大切なことは出血を止めること(止血)と痛みを和らげて細菌感染(化膿)を防ぐことです。
- ② すり傷の特徴：浅くてもきずの範囲は広く、汚れた時に細菌がつきやすいけれども、出血は少ないことが多い。
- ③ 切り傷の特徴：出血が多く、痛みも強い。きずが深いと筋肉、腱、神経を切ることもあります。
- ④ 刺し傷の特徴：きず口は小さくても深く、出血はそれほど多くないけれども、感染をおこしやすい。ガラスの破片や刃物が刺さった時には、血管や神経を傷つけないように無理やり抜かないほうがよいでしょう。

現場での応急手当

- ① きずの手当をする前には必ず手を洗ってください。きず口が土や泥で汚れている場合にはきれいな水で洗い流します。
- ② きず口の消毒には市販されている刺激の少ない消毒薬(0.05~0.1%グルコン酸クロムヘキシジン〔商品名：ヒビテンなど〕)を用います。
- ③ 出血部を清潔な指、ガーゼ、タオルなどできず口が閉じるように圧迫します(直接圧迫法、図1)。ガーゼ類はきず口を完全に覆う大きさとし、圧迫後頻回に交換せず、血液で汚れた時は上からさらに重ねて圧迫します。
- ④ 包帯を少しきつめに巻いても、同様に圧迫止血ができます(図2)。
- ⑤ 直接圧迫法だけでは効果がない時や切断に近い場合は間接圧迫法(きず口の心臓に近い部分を強くしぼる)も同時に行います(図3)。



図1 直接圧迫法

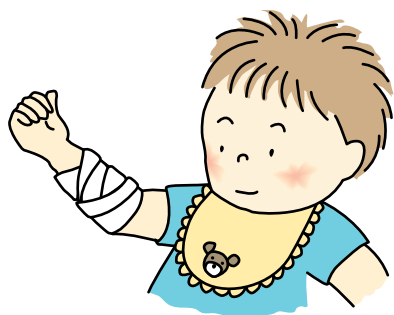


図2 包帯による圧迫止血

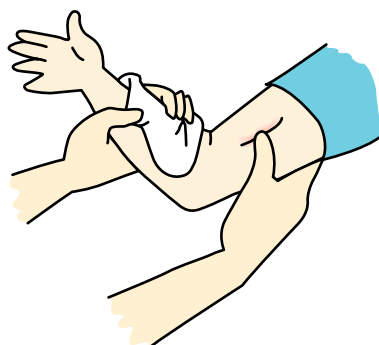


図3 直接圧迫法+間接圧迫法